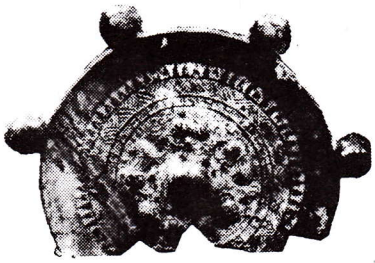
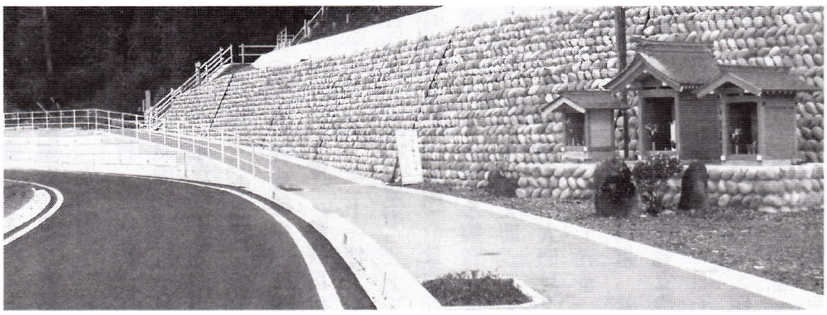
第 32 号　　平成19年 6 月21日

文化財やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡



新しい参道上り口に遷座された「一番様」(写真中央)ほか

剣・口大間見の

白雲山観音堂三十三所観音

会長　佐藤光一

平成一二年に着工された白雲山生活環境保全林整備事業が、平成一七年度で一応の完成を見、平成一八年四月二三日「白雲山安らぎの森」と名づけられてオープンしたが、剣用水の改良工事と市道剣岩野線の改良工事とが重なった関係で、参道上り口の工事は予定よりかなり遅れて今年三月に竣工した。

上り口の変更に伴い一番様、馬頭観音像、不動明王像の三体が移転することになったが、祠が解体されると、これまで寄進者の家族以外にはあまり知られていなかったのであるが、一番（如意輪観音半跏像）の船形光背には写真のように右側に「弘化三午年九月吉辰日立之」、左側に「森前太良右エ門」と刻印されていることが分かった。

森前太郎右衛門家の現当主は剣上阿千葉の森前邦明さんであるが、屋号は太郎右衛門と言い、先祖は、安養寺が東家から大島村野里一円の寄贈を受け、天文八年（一五三九）に堂宇を建立し、穴馬郷から移転した時に供をして来郡し、当時の剣村で最も水利に恵まれていた現在地に住居を定めたといわれている。

二番（十一面観音立像）には寄進者が畑中作平と刻まれている。この家も森前家の近所にあったが、子孫は北海道に居住しておられる。この「作平」は屋号だと思われるが、先祖の中には赤髭作兵衛という人がある。寛文七年（一六六七）八幡城主遠藤常友が八幡城を改修した際、作兵衛は二つの巨石を運んできたが、奉行が激賞すると作兵衛は力尽きて息絶えてしまった。このため、奉行はこの巨石の使用を禁じたという。昭和八年に天守が再建された時、作兵衛の心根を顕彰するため、この二つの石は現在地に移されて祀られている。

また七番（如意輪観音半跏像）は最初一番であったが、像が小ぶりであることから、一を七に

1番　如意輪観音半跏像

船型光背側面　左側・右側

改め、七番にした。七番（聖観音立像）は七の上に十を添えて十七番に改めたと、観音講の先輩から伝え聞いている。

このように白雲山観音堂の三十三観音には、それぞれ秘話があるが、紙面の関係から割愛し、弘化三年丙午六月十日付け「三十三所観音建立寄進帳」（大間見小野江勉さん所蔵）に少し加筆して三番以下寄進者の住所・名前を記しておく。

三番（千手観音立像）　剣村　戸吉（像にはただ「三番」とのみある）
四番（千手観音立像）　当村　佐藤勘三郎、五番（千手観音坐像）八幡　小瀬木茂助、六番（千手観音立像）　剣村　村勧進、七番（如意輪観音半跏像）　剣村　村勧進、八番（十一面観音立像）　内ヶ谷　木地師小椋平蔵、九番（准胝観音坐像）　八幡　亀山氏、十番（千手観音立像）　八幡　越前屋吉郎兵衛・前野屋源七、十一番（准胝観音坐像）八幡本町　佐藤三兵衛、十二番（千手観音立像）　徳永村　沢衛門・源市郎・利三吉、十三番（如意輪観音半跏像）　剣村　世話方中、十四番（如意輪観音半跏像）　八幡　八木嘉平治、十五番（十一面観音立像）　八幡　和田武兵衛、十六番（千手観音立像）　徳永村　丸山祐三郎、十七番（聖観音立像）　剣村　村勧進、十八番（如意輪観音半跏像）同村　林氏、十九番（千手観音立像）　長滝寺連中、二十番（千手観音立像）　歩岐島村　喜平・長四郎、二十一番（聖観音立像）　長滝寺連中、二十二番（十一面観音立像）　長滝寺連中、二十三番（千手観音立像）大間見村夕用　又助、二十四番（千手観音立像）　大間見夕用　日置市左衛門、二十五番（千手観音立像）大間見口組　若連中、二十六番（千手観音立像）大間見村　孫左衛門、二十七番（如意輪観音半跏像）　大間見村横通　与三吉、二十八番（聖観音立像）　上有知　松屋金兵衛、二十九番（馬頭観音立像）大間見村　梅三郎・常五郎・新助、三十番（千手観音立像）当村夕用　源兵衛、三十一番（聖観音坐像）　上有知　山田屋屋籐治、三十二番（千手観音立像）　大間見村夕用　才右衛門、三十三番（十一面観音立像）大間見村　小野江為氏

白雲山観音堂に関する最も古い記録は、現在のところ、『剣村留帳』（畑中洋子家所蔵）であるが、それによると、天保一四年（一八四三）観音像三体が藪の中或いは山の欠け口から発見されたのを機に、剣・大間見両村の有志が相談して、大間見八幡宮の古堂を貰い受け、仮堂を建立し、八月十八日「三体の尊像を仮堂へ御遷座奉り、当日両村休日にして、老若男女登山いたし、拝礼奉り、五穀成就・民生安全・現当二世の御利益を蒙り奉るべき瑞相と有難く歓喜の涙に咽び下山仕り候者也」と記している。

続いて、弘化三年（一八四六）石造二体の建立を藩庁に願い出、実際には三十三所観音を建立してしまったので、役人にとがめられ、懇願にもかかわらず、同年十月十四日、代官から「両村役人共他行留目申し付け候あいだ、左様相心得申すべきものなり」という差紙が届き、同二十三日両村三役人が白州へ呼び出され、「観音願いの外多分相建て、不埒の至り、これにより過料銭三貫文申し付け、弐体の外取り払い申しつく者なり」と申し渡されている。そして同二十八日には、松島利左衛門・小寺段七両役人立会いのもとに、観音堂麓へ取り片付けさせられている。

この事について妙見宮（現明建神社）の神主粟飯原豊後はその『万留帳』の弘化三年十月三十日に次のように書き記している。

一壱両年以前剣村・大間見村両村の境の山観音堂屋敷と申す所にて観音の仏体を拾い候者あり、古き社堂を貰い立てる、夫より追々信心の施主出来、三十三所の観音石像建立いたし、当十月九日開眼供養あり、尤も御上様内分の義か、この頃御差し止めに相成り候と申す説もあり、十月晦日是を書

白雲山の参道を上り詰めたところにある五輪塔群の中央部に建てられている供養塔には、正面に「南無阿弥陀仏」が、右横中央には「有縁無縁三界万霊等」、それを挟んで右に「弘化三午年」左に「九月日造立」と刻まれている。

その後誰が今日の姿に復したかは記録がない。しかし、以来百六十余年を経た観音像は、今に当時の朱色をほのかに残し、神々しさを湛えながら地域の人たちの崇敬の念をそそっている。

供養塔　正面（左）　右側面（右）

風林火山の信濃路に春を訪ねて

本川　喜代士

疾（ハヤ）きこと風の如く
徐（シズカ）なること林の如く
侵掠すること火の如く
動かざること山の如し

今年の大河ドラマは、信玄側から見た「風林火山」ですが、合戦だけでなく調略やかけひきが多く、現代にマッチした感じですが、私は余り好きでありません。今回の旅行の二三日前の地方選で、高鷲と大和と八幡の争いでしたが、結果は、皆さんご存知の通り。我々が握手した候補者が当選するのは何となく良い気分でした。

大和町文化財保護協会で一番嬉しいのは、春の一泊研修です。滝日準一さんの献身的な努力で毎年練りに練られた計画で実施されてきましたが、丁度、私の旅行記が一致しており、六年目に入って、行き先が無くなってしまいました。そういう訳で、再び信州行きになったのですが今回はメンバーの集まりが悪く準一さん一人で新しい仲間を、十名近く集めて来られたとの由、大変ご苦労様でした。

栗巣川堤防のサクラ

今年は桜の開花時期等は考えなかったとの事、それが却って良く、私達が早朝集合した南小前の駐車場から恩善寺前の栗巣川沿いの桜が満開前の状態に見えました。

高速に入ってから、下に見える風景は、盛りを過ぎた桜が多く、最初の休憩地、美濃加茂SAでは、満開後の感じの桜並木が遠目に望めました。

今回の旅行での最初のヒットは、第一見学地の選定でしょう。中津川にこんな場所があるなんて、殆どの人が初めてでした。ガイドさんによると、日本では夫婦岩は二十数カ所あるそうですが、女夫と続く女夫岩はここだけだそうです。児童館がすぐ側にあり、星のプロムナードと呼ばれるトンネルを抜けてから初めて見る岩の大きさは、卑猥さを通り越したユーモア満開の場所でした。ここでも花が綺麗で、記念撮影に気が付かない方が数人居られました。

風林火山の前に源平の悲劇の武将、木曽義仲ゆかりの地に、立ち寄りました。木曽福島の隣り日義村の徳音寺、この寺では檀家の法事に忙しく観光客相手どころではありませんでした。義仲の墓や、立派な義仲館も、ありましたが、私は参道入り口の、整然と並んだ石仏群の方に、目を引かれました。

中津川の女夫岩

ここまで時間がかかり過ぎ、奈良井宿は、木曽の大橋だけの見物になりました。橋脚のない橋での、日本最大の木造太鼓橋。数年前に訪れた錦帯橋が、思い出されました

午前中の日程は済んで、松本まで直行、松本城の周囲も満開の桜、さくら。バスの中からの桜越しのお城のスナップ撮影は、ほとんど失敗でした。

お昼は信州味噌屋さん、十数年前の朝の連続TV小説「かりん」から出てきた様な親父さん。

「今日本に出回っている味噌は全部ニセ物、三年醸造のうちの味噌だけが本物、一度味わってみて下さい。」滔々と喋る親父さんは社長さんとか、弁ぜつに聞き惚れしまいました。確かに出てきた一口寿司よりも味噌味の焼きおにぎりの方が味は良くトン汁と味噌汁は、絶品でした。

午後からが今回の一番の見所長野県麻績（おおみ）村福満寺人々が余り来ない感じの山奥の寺、以前は五〇年に一度ご開帳の秘仏でしたが、今は簡単に、お参りさせてくれました。此処では新井運転手の技量に感嘆。あの細い道のアッとと言う間の方向転回、ちょっと太めの体重なのに、あの大きなバスを自分の手慣れた車にして居りました。

この日の最後は青木村大法寺なだらかな坂道に足が少し鈍り

奈良井宿　木曾の大橋

翌日は温泉近くの智識寺から見学が始まりました。一木造りの十一面観音や本堂、仁王門等平安や室町からの貴重な文化財なのですが、この寺でも住職募集中とか、制服を着た教育委員会職員の説明でした。郡上でも、檀家が減っているお寺が多く、厳しい場面に立たされている地方財政が、こんな問題も抱えて居り、ひと事でなく聞きました。

次が、諏訪大社に関係のある水上布奈山神社、昔の名棟梁の彫刻をじっくり見させて貰えました。この辺、桜は未だの感じでした。

長野に入って五輪ドーム近くの八幡原史跡公園、川中島古戦場跡地で風林火山の大展示会の中に、長野老人クラブ保存会の会長が控えておりました。話題の人で、下ネタを交えてのユーモアに、帰りのバスでは笑いが絶えませんでした。ここが今回のハイライトでしょう。人も桜も満開でした。

バスは善光寺脇を浅川ループ橋、ボブスレーパーク経由で、戸隠へ。行く手の黒姫山などの山容がガイドさんを、喜ばして居りました。戸隠神社前には雪が残っており、その前で七年に一度使われると言う、金ピカの御神輿が寒そうに置かれて居りました。さて期待の昼食は戸隠そば、格別の味でしたが、予想外の事は、窓からの眺めでした。八方睨、高妻山、五地蔵岳等、雪に覆われた遠くの山並みが、くっきりと青空に映えて居り、その展望は最高のおかずでした。

山脈といえば、思い起こされるのは、六年前の後藤和代さんです。嬉しい事に今回もガイドは後藤さんで、家族の一員という感じでした。文化財保護協会に敬意を表し、必ず下調べして来ます。一生懸命勉強してきたメモを、この人は押しつけないのです。「私の話なんか聞いていないでいいですよ」そんな調子で小さな声で囁くのです。大半の人には子守唄になりますが興味のある方は耳を澄まして聴いているのです。つまり南北アルプスその他の山の知識と、下調べしたメモに夢の様なナレーション。私が今回発見したこの人の魅力です。

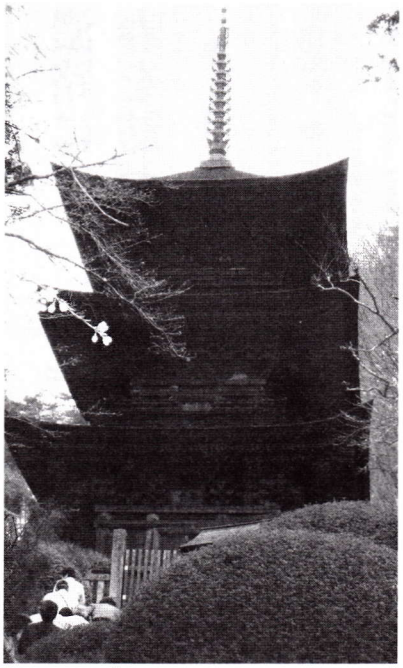
ビデオもDVDも何も要らない。ガイドさんだけは、後藤さんにして欲しい。そうしたら私は、行き先は何処でも参加します。準一さんお願いします。

戸隠を降りた所が信濃町柏原、小林一茶の生誕地に一茶記念館があります。

ましたが最後の頑張りでした。一番奥の階段の上に、見返りの塔と呼ばれる国宝の三重の塔がよく手入れの行き届いた植木越しに眺められ、咲き始めた桜が鮮やかでした。

帰り道、話に夢中で、駐車場を忘れ、坂道を降りて行った人が何人か居りました。この日最後の楽しいハプニングでした。

旅館は六年前と同じホテルでしたが、私の記憶もかなり薄れて居り、よく覚えていません。メンバーもかなり代わり、高齢の方が少なくなったのが淋しく思えます。



国宝　大法寺の三重塔

戸隠神社

「信玄・謙信一騎討ちの像」の前で

八方睨、高妻山、五地蔵岳の眺望

私はこの句が好きでしたが、ここでは二つの句が心に留まりました。

おらが世や　そこらの草も
　　餅になる

初夢に　古郷を見て　涙かな

それにしても一茶が苦労の多い一生だったなんて考えられない事でした。

黒姫山が妙高に変わると新潟県に入り上越市春日山、相手方謙信の本丸へ。私達が子供の頃小川未明は何か読んだ記憶はありますが、父子で謙信の信奉者なんて初めて知りました。越後を守る拠点の春日山城ですが、日本海からの風は、まだ冷たく感じられました。我が観光軍団は元気で、数十分の自由時間を

小林一茶像

上杉謙信像

目一杯使い、頂上近くまで征服された人が何人か居たようです。

以前と同じ二十六のトンネルを通過しての帰路になりましたが驚いたことに隧道一つひとつをメモしている人が居りました序でに距離を添えたら更に貴重なメモになるでしょう。

今回でも恵那山トンネルや、白川から五箇山までのトンネル等、長い隧道は郡上近辺で目立ちますが、東海北陸道が完成の暁には日本で二番目の長い隧道になるとか、完成が待たれます。

最後に、有代眞一さんの挨拶です。最近、間の取り方も巧みになられ、終わりのスピーチを聞くのが楽しみになって来ました。ドライバー、ガイドさん、そして無事に済んだ皆さんの協力に感謝し、気持ちの込もった最後の締めでした。

旅行の数日後、機会があって有代さんのお宅に初めて伺いました。庭一面が綺麗な花壇で何時でも何かの花が咲き、その手入れで時間を忘れちゃうとの事。遠くに長良川堤防の桜並木が眺められもう最後の花でした。部屋の中には、描きかけの花の水彩画が置かれ、6月の展覧会に向けて、心忙しい毎日とか。正に悠々自適を絵に描いた様な生活に思えました。

旅の終わりの夕食会

老々介護に苦労している人もいれば、定年後、何年も経っているのに若い頃蒐集した趣味のレコードすら聴けない程忙しい方も知って居ります。人は人我は我、人々はそれぞれの価値観で、老後を過ごしているのでしょう。私は、誰かの役に立つ人間に成れたら好い、と思って居ります。

最後に、私ごとで恐縮ですが選挙の朗報です。長崎で伊藤前市長が凶弾に倒れた同じ地方選で、私の義弟が、伊豆大島の町議選で再度当選の報が入りました。思ってもいなかった事でしたので、宅急便や電話のやり取りで、大いに喜びを分かち合いました。好くないニュースが多い中で、私共では、心楽しい二〇〇七年春でした。

われと来て　遊べや
　　親のない雀

念館があり、ここからも黒姫山の全貌が美しく望めました。今回の旅では秘仏だろうが何だろうが何処でも撮影自由でしたが、ここでは受付の職員に注意されてしまいました。携帯やデジカメで目立たなく撮っていれば注意されなかったのでしょうが、私は決まりを守り他の人をガードした気分です。撮影禁止の看板に気付いた方は殆ど居なかったと思います。

平成18年度　事業報告書

4月20日(木)　執行部会（年間事業計画等について）
執行部会、役員会提出議題について
「文化財やまと」編集委員会
原稿依頼について
5月13日(土)　第一回役員会　監査会、
平成17年度会務・決算報告について、平成18年度事業計画・
予算案について、平成18年度総会について、会員拡大について、
会費徴収について
6月19日(金)　県文化財保護協会理事会
6月19日(金)　第一回郡上市文化財保護協議会理事会（役員改選、その他）
6月12日(月)　平成18年度県文化財保護協会総会
平成18年度総会　①17年度会務・会計報告
②18年度事業・予算の承認
講話：文化財展示館展示物から日本史を見る
会報「文化財やまと」発刊（発行部数４００部）
7月29日(木)　執行部会
7月10日(月)　第二回役員会
7月30日(日)　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（参加者三五名）
8月7日(月)　七日祭・薪能
9月13日(水)　郡上市文化財保護協議会 文化財めぐり（於、大和町）（参加者21名）
9月20日(水)　研修部会（秋の日帰り研修について）
10月4日(水)～5日(木)　郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」（本会参加者3名）
11月11日(水)　執行部会
11月18日(水)　第3回役員会（秋季日帰り研修、その他）
11月17日(金)　秋季日帰り研修（東福寺・西本願寺・東寺参観）（参加者42名）
12月5日(火)　執行部会
12月16日(土)　第四回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他
2月9日(金)　役員会（平成一九年度春季一泊研修について、役員改選、その他）
平成19年度宿泊研修計画
①探訪地：中津川市・女夫岩、木曾・徳音寺、奈良井宿・大橋、福満寺、戸倉上山田温泉（泊）智識寺・十一面観音像、水上布奈山神社、川中島古戦場、戸隠神社、一茶記念館、春日山城跡・同神社等
②期日：4月11日(水)～12日(木)
3月26日(月)　県文化財保護協会理事会
3月28日(水)　郡上市文化財保護協議会理事会

平成19年度　事業計画書

4月11日(水)～12日(木)　平成19年度宿泊研修
探訪地：中津川市・女夫岩、木曾・徳音寺、奈良井宿・大橋、福満寺、戸倉上山田温泉（泊）智識寺・十一面観音像、水上布奈山神社、川中島古戦場、戸隠神社、一茶記念館、春日山城跡・同神社等
4月20日(金)　「文化財やまと」編集委員会
原稿依頼について
5月15日(火)　県文化財保護協会理事会
5月19日(土)　執行部会、
平成18年度会務・決算報告について、平成19年度事業計画・
予算案について、平成一九年度総会について、会員拡大について、会費徴収について、役員改選について
6月28日(月)　第一回役員会
6月29日(火)　文化財保護巡視員研修会
6月12日(火)　平成19年度県文化財保護協会総会
6月21日(木)　平成19年度総会　①18年度会務・会計報告
②19年度事業・予算の承認
会報「文化財やまと」発刊発行部数（３００部）
7月29日(金)　執行部会
7月10日(火)　第2回役員会
7月29日(日)　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃
8月7日(火)　七日祭・薪能
9月21日(金)　研修部会（秋の日帰り研修について）
10月10日(水)　執行部会
10月18日(木)　第三回役員会（秋季日帰り研修、その他）
12月5日(水)　執行部会
12月15日(土)　第四回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他
1月28日(月)　研修部会（平成20年度春期一泊研修計画）
2月9日(土)　役員会（平成20年度春季一泊研修について、その他）
3月25日(火)　県文化財保護協会理事会
《以下未定》
第1回　郡上市文化財保護協議会理事会
郡上市文化財保護協議会 文化財めぐり（担当八幡町）
郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」
秋季日帰り研修
第2回　郡上市文化財保護協議会理事会
（以上のほか、本会の活動に合致した展覧会・発表会等には、協議の上、できるだけ参加する。）

平成19年　4月末現在

会員名簿（順不同）

■剣

山下運平（顧問）　八八－二四〇六
籏　勝美（顧問）　八八－二〇三一
村瀬喜八　八八－二一二八
河合俊次　八八－二二四六
小池久江（理事）　八八－二五七六
山下ふみえ　八八－三二二七
加藤正恵　八八－二一〇七
加藤文蔵　八八－二八〇二
佐藤光一（会長）　八八－三二〇一
佐藤八重子　八八－三二〇一
田中和久　八八－二二〇〇
高橋義一（副会長）　八八－三七九二
高橋叙子　八八－三七九二
河合　恒　八八－二三五八
河合　尚　八八－二三〇四
加藤小弐　八八－二三二九
森前とし子（理事）　八八－三四七九
岩崎扶美子　八八－三五二一
河合利雄（理事）　八八－三五二〇
河合美弥子　八八－三五二〇
山内　博　八八－三八八六
山内悦子　八八－三八八六
小池祐二　八八－四〇六四
小池圭子　八八－四〇六四
林　千里　八八－三三三三
佐藤公子　八八－二一六一
山下妙子　八八－二四〇五
山田ひとみ　八八－二七三六
日置節子　八八－三四〇二

■大間見

村井正蔵　八八－二三二三
大野一道（理事）　八八－二二三〇
大野紀子　八八－二二三〇
野田英志　八八－二二八五
清水一作　八八－三〇八六
池田充彦（理事）　八八－三〇九〇
小野江　勉　八八－二七二五
松井賢雄（理事）　八八－三九九一
藤代順行　八八－三〇六〇
玉木吉郎　八八－三四一五
小野木花子　八八－二七四七
青木ユリ子　八八－三四七七
日置敏明　八八－三一〇五

■小間見

田代善一（理事）　八八－三九六五
畑中真澄　八八－二四四一
石神堯生　八八－二四一三
稲葉和巳　八八－二五〇三
筧　伸雄　八八－二五三二
筧　明代　八八－二五三二
黒岩弘美　八八－二四五八
井俣初枝　八八－二七五八
青地正男（理事）　八八－二四四七
大井正明（書記）　八八－二八九四
大井次子　八八－二八九四
籏　清子（理事）　八八－四一七〇
山田敬子　八八－三九一七
大井ともゑ　八八－二八九三
三輪孝子　八八－二七八二
桑田守夫　八八－二五一四
大中弘美　八八－三五〇六
大中春子　八八－三五〇六
鷲見　務　八八－二六五一
鷲見三津子　八八－二六五一
小倉義明　八八－三二二四
小倉津油子　八八－三二二四
桑田洋一　八八－二四一四
桑田　博　八八－二二四一

■徳　永

矢野原幸子（理事）　八八－二〇七七
水野志づ子　八八－二六一〇
山内孝一（理事）　八八－二六一六
土松新逸（名誉会長）　八八－二七三一
遠藤賢逸　八八－二一二二
遠藤冨貴子（理事）　八八－二一二一
木島三郎　八八－三五九〇
矢野原吉夫　八八－二一三九

■河　辺

清水美佐子　八八－二〇二一
前田　孝（理事）　八八－二一〇一
尾藤　清　八八－二一四七
尾藤元子（理事）　八八－二一四七
岩谷敏子　八八－二〇六三

■神　路

森　忠敬　八八－二〇八三
臼田宝徳　八八－三七三〇
羽生　清　八八－二二七一
山田眞人（会計）　八八－二一一四
山田正代　八八－二一一四
山田　健　八八－二六八九

■牧

金子政子　八八－三四二六
滝日準一　八八－二七〇五
滝日美代子　八八－二七〇五
粟飯原常人　八八－二三六二
日置貞一　八八－二六六二
日置　昇　八八－三六三六
遠藤千津子　八八－三六三七
遠藤光平　八八－三九八一
遠藤周一　八八－二八九〇
滝日敬子　八八－三四〇六
田口勇治（監事）　八八－三九五〇
加藤一男　八八－二八七〇
日置元衛　八八－三四一七
本田欽一（理事）　八八－三一六〇
野田嘉明　八八－三〇四三
尾藤佐紀子　八八－二三五三
早瀬ふみ子　八八－三三二七
日置康夫　八八－三七八八
日置清子　八八－三六三六
日置貞子　八八－三一二〇
斉藤武生　八八－三九二二
滝日一正（理事）　八八－三〇六四
金子徳彦　八八－三〇六三

■栗　巣

島崎増造（監事）　八八－二二三六
増田洋子　八八－四〇四一
筧　政之助（理事）　八八－四〇三一
野田恵光　八八－四〇二七

■古　道

■万　場

細川　優（理事）八八－二八六一
清水克巳　八八－二八六二

■名皿部

有代眞一（副会長）八八－三七九一
有代紀子　八八－三七九一
有代和夫　八八－二二〇一
森下正則　八八－三四一三
佐尾チドリ（理事）八八－三五四四

■島

森藤雅毅（理事）八八－二六八四
山田長次　八八－三六四八
田中　篤　八八－二七九二
奥田昌明　八八－二五二〇
直井篤美　八八－二六二二
雉野尚子（理事）八八－三五六四
遠藤利雄　八八－三五二六
本川喜代士（理事）八八－三八三三
本川清子　八八－三八三三

◆◆◆ 平成18年度　決算報告書 ◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	403	
会費	582,000	
会員会費	252,000	正会員2,000×122名 家族会員1,000円×18名
特別会費	330,000	日帰り研修315,000円（42）、 役員研修15,000円（15）
助成金	81,000	
寄付金	1,894	
雑収入	1,891	預金利息42円　定期解約利息 端数984円　雑費865円
合計	667,188	

（支出の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
会議費	31,341	
総会費	17,036	講師料5,000円、茶5,400円 準備弁当代等6,636円
会議費	14,305	役員会茶10,150円、 監査弁当代4,200円
事業費	440,018	
特別研修費	426,076	1日研修340,469円・ 役員研修費30,069円
会報発行費	47,250	400部
事業活動費	6,692	奉仕作業燃料・お茶等 七日祭り御神酒代
事務局費	12,450	
消耗品費	6,000	インク等
通信費	6,240	通信用ハガキ5,700円 通信用切手540円
振り込み手数料	210	
会費（県・市）	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
積立金	60,000	重要出版物準備
合計	633,809	

収入 667,188 － 支出 633,809 ＝ 33,379円

（33,379円は次年度へ繰り越し）

◆◆◆ 平成19年度　予算書 ◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	33,379	
会費	1,766,000	
会員会費	252,000	正会員2,000円×122名 家族会員1,000円×18名
特別会費	1,515,000	日帰り研修 300,000円(40)、 1泊　1,200,000(40) 役員研修15,000円(15)
助成金	81,000	郡上市より
寄付金	1,000	
雑収入	621	預金利息
合計	1,882,000	

（支出の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
会議費	30,000	
総会費	15,000	講師料、茶代等
会議費	15,000	役員会お茶代外
事業費	1,725,000	
特別研修費	1,650,000	1日研修・1泊研修、役員研修
会報発行費	70,000	400部
事業活動費	5,000	奉仕作業燃料、お茶等
事務局費	13,000	
消耗品費	5,000	
通信費	7,000	通信費外
その他	1,000	
会費（県・市）	50,000	県:30,000　郡上市:20,000
予備費	5,000	
積立金	60,000	
合計	1,882,000	

平成18年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成19年6月1日

監事　田口勇次　島崎増造

編集後記

◇今年の田植えでは大きな失敗をした。稲の本数の調整を、田植機販売の専門家の言う言葉を信じ、植えるときに確認をしなかった。植え終えてから稲の本数を見ると、一本植えの稲が無数にあった。二反余の田である。

当然のことながら稲の箱は十箱ほど余っている。生まれて始めて一反五畝ほどの付け苗をした。なれない仕事に腰痛が加わり、二・三歩歩いてはもう止めようかと自省しながら、とにかく植え終えた。途中で見かねた隣人に助けてもらった。この誤りの主因は私にある。専門家が行った調節を疑うことなく受け入れ、確認を怠ったからである。

◇一六世紀（一五〇〇年代）イギリスの思想家フランシス＝ベーコンは権威者の言葉や伝統などを、何も疑わずに信じることによって生ずる誤った考えのことを劇場のイドラ（偶像）と呼び、真っ先になくすように主張した。ベーコンさんが生きていれば、それ見たことかと批判されることは間違いない。

（眞）

「文化財やまと」第三二号　平成十九年六月二十一日発行　発行者／大和町文化財保護協会　代表者／佐藤光一　印刷者／白鳥印刷